



カブトガニ幼生を飼育協力校へ引き渡し

12月17日、牧島小学校でカブトガニ幼生の引き渡しがあり、伊万里高校の生徒がカブトガニの幼生約100匹を牧島小学校5年生の児童8人に渡しました。

カブトガニの幼生は、伊万里高校の理化・生物部の生徒が、昨年の夏に多々良海岸で採取した卵をふ化させたもので大きさは7ミリのほどです。

これから児童たちは、海水濃度をチェックしたり餌をやったりしながら、カブトガニの幼生が約1ヶ月の大きさになるまで飼育に取り組んでいき、育てた幼生は、夏にカブトガニを守る会などと一緒に伊万里湾に放流する予定です。



↑カブトガニの幼生を飼育する水槽の中に慎重に移す児童

伊万里地区防災講演会

12月24日、市民センターで『伊万里地区防災講演会』が開催されました。

これは、伊万里地区民と啓成中学校の生徒、その保護者などが、防災について一緒に考えることで地域の防災意識を向上させようと伊万里地区まちづくり運営協議会と啓成中学校の共催で開催したものです。

講師は『しほママ』こと柳原志保さんが務めました。柳原さんは東日本大震災と熊本地震を経験し、現在は防災士として活動しています。今回は『今すぐやれる！目からウロコのぼうさい』と題し、災害を忘れない『忘災』という視点から、実体験を基にすぐに役に立つ防災についての知識などを、歌を交えて楽しく学べる体験型の講演を行いました。生徒たちは楽しみながらも真剣に学んでいました。



↑「防災力は人間力を育む」と話した柳原さん

コキアで箸づくり体験

1月16日、東山代小学校で植物のコキアを活用した『箸づくり体験教室』が開催され、6年生が参加しました。

この教室は、東山代町川内野地区の住民が地域資源の活用や小学校を卒業する児童に思い出をつくらせてもらうことなどを目的に開催しています。3回目の開催になる今回は『川内野棚田』のメンバー5人が講師を務めました。

児童たちは、講師の手ほどきを受けながら、コキアの枝に麻ひもを巻いて持ち手を作り、長さ1センチほどの箸を完成させました。

箸を作り終えた児童は「コキアで作った箸は、軽くて使いやすいです。家の玄関を掃除したい」と話しました。



↑児童は、1つとして同じものがないコキアを使い『世界に1つだけの箸』をつくりました

郷土の文化財

●問合先 生涯学習課文化財係 ☎22-1262

サワラ

伊万里市の天然記念物シリーズ⑥

昭和56年に市天然記念物に指定されたサワラは、黒川町横野地区の公民館前に所在しています。樹齢は推定では500年以上といわれていて、樹高は約20・5メートル、目通り幹回りは約2・5メートル、枝の広がり、は東西10・5メートル、南北約12メートル、県内随一の大きさです。

サワラは、ヒノキ科に属する常緑高木で、ヒノキにとてもよく似ていますが、サワラの特徴は葉先の一つ一つがとがっているところです。また、耐久性に富み、香りが強いことから、かつては桶や襖、障子などに多く使用されていましたが、ヒノキに比べて成長に時間がかかることや、桶などの需要が減ったことなどから現在ではめったに栽培されていません。

市では、もともとサワラは自生していません。樹木学術上の価値が高い樹木です。地元の伝承によれば『岸岳城落城の後、落武者の一人が寺を建て、その庭にサワラを植えて大切にしていた。その後には寺は無くなったが、当時の人たちはこのサワラを神の宿る木と信じ、信仰していた』と伝えられています。また、サワラ付近の湧き水がある池は『寺の川』と呼ばれ、現在もその面影が残されています。

